大里中学校だより　【11月号】　R4．11．1

大里中グループ（中田小・大里西小・大里中）教育目標

未来の創り手として、豊かに生き社会で活躍できる子どもたち

http://www.ozato-j.shizuoka.ednet.jp/ 学校ホームページが随時更新され、大里中学校の「今」がわかります。

「仰（卯）高（こうこう）」と「仰　峰（ぎょうほう）」

校長　横井 利夫

先月 17 日（月）、静岡高校（以下、静高）で「第２回公立高校校長と中学校校長との連絡協議会」が行われ、会の最初に、静高の授業を参観させていただきました。実はこの会の第１回は、７月５日（火）、大里生涯学習センターで行われ、高校の校長先生たちが、大里中の授業の様子を参観しました。その時の様子は、学校法ＨＰ「校長のひとりさんぽ・ひとりごと No.41」で紹介しました。その時、大里中を参観した高校の校長先生から「生徒の発言が多く、皆楽しそうに授業をしている」「高校と比べ、先生と生徒の距離が大変近く感じた」「様々な学びのスタイルで授業が行われていた」などの感想をいただきました。

今回、私が静高の授業を参観して、一番感じたことは、「生徒一人一人の授業に対する凄まじい集中力」でした。特に大学受験を控えた３年生の教室には、我々参観者が、教室内に入るのを自然とためらい、ほんの少しの音も立ててはいけないと思ってしまうほどの集中力が、教室内に充満していました。「教師による説明の一字一句を聞き漏らすまいと、耳を傾け、メモをひたすら取る集中力」「自分の力で問題を解決させようと問題とひたすら格闘する集中力」が、どの授業、どの生徒にも見られました。

そして、このような問いが頭に浮かびました。

どうして、静高の３年生は、これほどまでに真剣に集中して授業に取り組んでいるのだろうか。

静高の校訓は**「仰(卯)高　―高きを仰ぐー」**です。ちなみに、似た言葉が、大里中の正門前の銅像に掲げられています。**「仰峰　―峰を仰ぐー」**です。**「高き」も「峰（＝山の高いところ）」も、自分のもてる能力を最大限発揮できる場所**を、**「仰(あお)ぐ」は、上を見る（目指す）こと**を意味します。

静高の正門近くにある「卯高」の石碑。「卯」と「仰」の音と意味はほぼ同じ。

本校の正門前にある「卯峰」の銅像。指さすのは、日本一の富士山！？

さて、問いに戻ります。問いに対する答えは、今まさに、静高の３年生は**「仰(卯)高」だから**なのではないでしょうか。

近い将来、自分のもてる力を思いきり発揮できる場所（進路）をしっかりと見つけ、そこにたどり着きたいと思うから、長時間の学び、解決困難な学びに対しても、高い集中力が継続できるのでしょう。このように、今回の静高の授業参観を通して、静高生から、あらためて「目標をもつこと」「目標達成後の自分の姿を想像すること」の大切さを教えられました。

大里中の３年生も、**「仰峰」によって**、日々の学習における「集中」が一段と高まることを期待します。

このように**「授業に『集中して』取り組む静高生」**も素敵ですが、最近のよく見かける**「授業に『夢中になって』取り組む大里中生」**も素敵です。学校ＨＰの「校長のひとりさんぽ・ひとりごと」でお伝えしているとおり、総合的な学習の時間で行われる『大里型ＰＢＬ（課題解決型の探究的な学び）』や合唱祭に向けての合唱の授業や練習などで、多くの大里中生が、自分の「好き」や「得意」を生かしながら、夢中になって活動する姿が見られます。

「夢中」になって取り組んだ経験が、将来、長時間かつ困難度が高い問題解決の場面で必要な「集中力」につながります。

学びの中から、自分が「夢中」になれる「夢中」の種を見つけ、「夢中」になった体験も、**「仰(卯)高」**や**「仰峰」**につながっていくのです。